

# 未 来 館

“自分らしさ”を生かした未来へ

# NEWS

2008.10

No. 33

特 集

## 愛川欽也さん×下村満子館長 トーク

特集



愛川欽也<sup>さん</sup>  
×  
下村満子<sup>館長</sup>  
トーク



7月19日(土)、俳優の愛川欽也さんが制作・監督を務めた映画「いつも二人」の上映と、愛川さんと当センター下村館長とのトークを開催しました。

**下村** 皆様、本日は大変暑い中を県内各地からおいでいただきありがとうございます。こんなにたくさん集まっていたいただいて本当に感激です。

私と愛川さんは長いお付き合いで、通信衛星(CS)で放送している朝日ニュースターの「愛川欽也バックインジャーナル」という2時間番組で10年間、私が準レギュラーのような形で出演させていただいています。

愛川さんのお連れ合い様であるうつみ宮土理さんとは、お二人が出会う前、私が朝日新聞社に勤めていた頃から一緒に仕事をしていて、とても仲良くさせていただいていました。

さて、皆様は映画をご覧になっていかがでしたか？最近の映画は暴力、セックス、殺しといった描写が多い中で、この映画はこんなにも優しく心温まる、しかも、エリートのような偉い人は1人も出てこない。それがいいですよ。愛川さんは、儲けるためではなく、制作費を全て自分で背負って映画を作っていたらっしゃるんです。また「劇団キンキン塾」というご自分の劇団もお持ちです。一番好きでやりたいことは映画や芝居で、それを1人でも多くの人に観てもらいたいことが最大の喜びだとおっしゃっていますが、どうして自分で全て背負ってまで映画を作りたいというお気持ちになったのでしょうか。

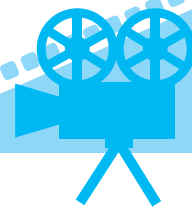


## 映画をつくる理由

**愛川** 僕は半世紀を超えて役者生活を送っています。昭和26年、17歳でこの世界に憧れて入った。この世界に入る前、高校生の頃、最初に憧れたのがフランス映画で

あいかわ きんや  
愛川 欽也 さん

東京都出身。浦和高校を経て、俳優座養成所に入学。  
テレビ創世記に声優、ラジオDJとして人気を博し、のちに司会者として「11PM」や「なるほど！ザ・ワールド」などの長寿番組を支える。  
映画「トラック野郎」シリーズ。  
近年はドラマ、舞台などの幅広い分野で活躍。  
文化放送「キンキンのサンデーラジオ」(毎週日曜日 午後1時～4時)、  
CS朝日ニュースター「愛川欽也バックインジャーナル」(毎週土曜日 午前11時～午後1時) 他、テレビ東京「出沒！アド街ック天国」



す。僕は東京の巣鴨の生まれで、おふくろと2人で戦争中に転々と疎開して、最後に埼玉県の大宮に行き、進学校といわれる浦和高校に入っちゃった。そうしたら学校の前に映画館ができて、これが「北浦和映画劇場」といった。おふくろには「浦高に入ったんだから一所懸命勉強して立派な弁護士になりなさい」と言われて「なります」なんて返事をしていました。

それなのに、ある日、僕は出来たばかりの映画館に行きたくなっちゃった。で、学校に行かずに映画館に入って見たのが、たぶん1930年代のフランス映画です。ルネ・クレールとかマルセル・カルネとか、フランスの大監督が撮った映画を見たら、たまらなく自分と合っていると感じたんです。

アメリカ映画も見ましたが、信じられないくらい強い男が出てきて、自分は無傷で悪者をやっつける。それがアメリカ映画でした。フランス映画は、どう考えても人生に挫折して、何か間違っちゃったやつだね。ヒーローじゃない、ヒーローになれないようなやつが主人公。

僕はそれを見ながら、「これは自分だ」と思いました。高校時代に、「フランスはこういう映画を撮っているんだ。いいな。フランス人になりたい」と思ったんです。

**下村** なれると思ったのですか？

**愛川** 考えたらなれない理由がいっぱいありました。まずフランス語がしゃべれない。

1951年ごろ、僕は東京で初めて新劇の劇団の、モリエールの芝居を見ました。金髪のかつらをかぶって、フランス人の役を日本人が日本語で演じているじゃないですか。「あれ？なんだ、フランスに行かなくてもフランス人になれるんだ」と思って、俳優座の試験を受けたら、受かっちゃったんです。以来、そのまま役者の世界にいます。とうとうフランス人にはなれなかったけど。

その時に見たフランス映画の魂みたいなものが今も僕の中にあるから、近ごろの映画は大嫌いです。下村さんもおっしゃったけど、すぐに首を絞めたり、血だらけになったりと酷いものが多すぎる。だから、僕は青春時代に見た映画を普通に作りたいと思って、去年と一昨年と2本撮りました。僕の映画を見て、特に若い人なんか、かったるいなと思って結構だと思ってる。だって、誰かに予算をいただいたわけでも何でもなくて自分の私財でやったんだから。

むしろ、そういう形でしか僕の映画は撮れないんですよ。僕が今、やろうとしている映画は、テレビ局のコマーシャルも流さないし、映画会社も上映してくれません。

もちろん僕がシナリオも書いたけれど、何も無いような普通の男が出てきて、こいつが偶然、惚れて、惚れて、惚

れまくった半分くらいの年の若い女と一緒に商売を始めて、そのままうまくいったところで映画を終わらせたなら、男性のお客さんはきっと僕に反感を持ちます。「それはキンキン、あんまりだぞ」と。それで、ちゃんと死なせたんですね。銃じゃなくて自分の病気で倒れただけ。女性のお客さんは別かもしれないけれど、恐らく男性のお客さんは、「キンキン、死んでくれてありがとう」と思っている。

**下村** 実は夕べ、夫と一緒にこの「いつも二人」のDVDを見たんですよ。そうしたら、最後に、愛川さん演じるさえない中年男が、娘みたいな若い女性とようやく結婚できたというところで、夫が私の隣で羨ましそうに「なんて運のいい男なんだろう」ってつぶやいているわけです。ところがその男が最後に死んでしまうのを見て「えっ、死んじゃったの？」って大ショック。もう我事のようにね。なるほど、男の心理はこうなんだって思いました。(笑)

## 「優しさ」を伝えたい

**愛川** そう。女性は二人が上手くいったのを見て「よかった。この女はやっと気が付いた。」とたぶん許してくれるけれど、男は許さないと思う。僕は男だからわかるんだ。

だから僕は、この幸せがすごく短いけれども、そこから湧いてくる温かいものが伝わればと思ってます。下村さんみたいにジャーナリストで、日本の先端でパイオニアのような仕事をしている方が、僕の映画を誉めてくれたのが驚きでした。

もう1人、映画評論家で、この間お亡くなりになった水野晴郎さんが「キンキンらしい映画だ。僕はいいものを見せてもらった。映画ってこういうもんだっただよ」と、しみじみ言ってくれたんです。そうだ。映画ってこういうもんだっただよ。僕がたった一つ大事にしたかったのは、人間で、なんだかんだと言っても優しいものですよ。優しいために挫折したり、苦労したり、間違ったり、少年の頃どこかで少し万引したりなんかしちゃう。

人間は挫折したり大間違いをしたりするかもしれないけれど、絶対に優しいものだということを昔から信じています。その優しいやつが、何かで歯車を間違えて、とんでもないことをするようになったのは、やっぱり世の中にも大きな責任がある。テレビや映画も、そういうことに手を貸していませんかって思うんですね。

人生をコツコツ生きていて、ヒーローでも偉い人でもない、そういうやつを僕は映画で撮りたいし、芝居でもやりたい。僕の映画には強くてカッコいいヒーローなんか出てきません。けんかをしたら強くないしね。そういう人間

を描くことで、優しさを伝えたいというのが僕のテーマです。

**下村** そういう人って人間としてすごく愛おしいですよ。そういう部分をほとんどの人が持っていて、悩んだり迷ったりしながら生きている。人間はもともと悪の存在で信用できないといった、性悪論のほうが先行してしまうのはやっぱり悲しいことです。人間の本质は善であり、ささやかな優しさを大事にしなければなりませんよね。

**愛川** 近ごろは恐ろしい時代で、何かというときに人を殺してしまう。人間が優しいということを忘れていないかと思う。あるいは、そういうことをどこかに置き去りにしてきている。

そう考えると、僕の映画は何も大して役に立たないかもしれないけれど「ほら、優しいだろう」と言うことはできると思う。

## 父と母からの影響

**下村** ところで、愛川さんがお書きになった小説『泳ぎたくない川』は、愛川さんの限りなく自伝に近いものですね。私は、この映画に出てくる男の姿が、要するに愛川さんの反映じゃないかと。ヒーローや偉い人じゃない、温かい心を持った平凡な人たちです。

後でもっとお聞きしたいのですが、愛川さんは母子家庭でお母様がほとんど一人で必死に育てられたようですが、小説に出てくるお父さんの名前が、実は映画の主人公と同じ「善さん」なんですよ。どこかにお父さんの姿が投影されているのかしら。

**愛川** あまり意識して書いてはいませんが。名前は善三ではないけれど「善」が付いています。「どうしようもないやつ」というイメージが親父の中にあるんです。そうすると、僕がやろうとしている男も、やっぱりどうしようもないやつが多くなるし、シナリオを書いて名前を付ける時も親父に近い名前が出てくるんです。

過去に僕が演じた役をふり返っても、強い人はいない。30年ぐらい続いている刑事のシリーズでも、1階級も昇級していませんね。そういうのが多いです。

**下村** そこがまた、ほのぼのとしていて共感できますよね。

映画の話に戻りますが、私がお聞きした話では、フランス人にはなれなかったけれどモロッコで撮った映画というのがあるとか。

**愛川** それは最初の映画で、相当前ですよ。37歳の時に、映画「カサブランカ」に憧れてモロッコのマラケシという町で撮影しました。日本人の男がフランス人の女に恋をして、あっさり失恋してしまうという、さえない男の話です。

それを撮ったのが最初だから、実は僕はまだ3本しか映画を撮っていません。37歳で1本。一昨年に1本、そして去年1本だから全部で3本。

**下村** だけどもね、映画を作るにはとにかくお金がかかるわけでしょう？借金もするでしょうし、作っても全然儲からないでしょう？以前話をしたときに、愛川さんは「テレビにたくさん出て稼いで、それを全部、本当にやりたい映画の仕事につぎ込んでいる」と言っていたんですが、それは本当ですか？

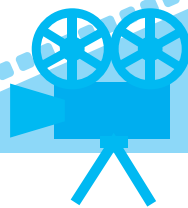
**愛川** 近いものがあります。もう一つは、より多くの人に見てもらいたい。だけど今のテレビというのは、悪いけれど、過去にこんなにひどい時代になったことはないと言えるくらい相当質が悪くなってしまった。

そういう今のテレビで僕の企画が通るわけがないし、テレビ局が宣伝したって若い人は見ない。それで僕は自分で作って、見てくださる人たちに見てもらおうと思っていたら、福島でやれることになったんです。

**下村** 愛川さんの、テレビで見ているイメージとは少し違った部分を福島の皆さんによく知っていただいて、とてもうれしいです。

ところで、ここは福島県男女共生センター「女と男の未来館」と申しまして、硬い言葉でいえば「男女共同参画社会」を推進するための県立の施設です。今までの伝統的な男女の生き方、例えば女は家庭を守り、男は外で働くという決められた一つの生き方しか選択できなかったのを、そ





うではなくて、女性も外で能力を発揮して働いたり、逆に男性も家事や子育てをしたりするというように相互乗り入れをして、一人ひとりの人間が、女も男も自分の人生に責任を持ち、自分の生き方を自由に選択できる対等な社会にしましょうということです。女性だけではなく、男性も差別されているのが現実です。男の価値というのは名刺の肩書と収入だけで決められてしまう。それも男性にとっては過酷なものです。

この映画の“善さん”みたいに、優しく人間として素晴らしい人は世の中に沢山いるけれど、評価されないことが多い。いろいろな生き方を考えるという意味で、映画というのは大変いい学習材料だと思います。この「いつも二人」という映画は、男と女の話で、そういう意味でもこのセンターで上映するのにぴったりでした。

小説の中だと、愛川さんのお母様はほとんど一人で、必死になって働きながら愛川さんを育てられた。お母様は愛川さんを溺愛していて、一度もしかられたことがないと書いてありました。私は、愛川さんの女性観の原点にはお母様がいるのだと思うのですが、お母様というのはどういう方で、愛川さんにどういった影響を与えてきましたか。

**愛川** 僕のおふくろは、僕に甘いといったら、こんなに砂糖よりもまだ甘いようなおふくろはいないくらいです。僕は、生まれておふくろが死ぬまで、怒られたことは一遍もありません。そういう教育ですね。だから、叱ることが大切だとは僕はあまり感じません。かわいがるほうが大事なんじゃないかな。実際に僕はものすごくかわいがられていた。「目の中に入れても痛くない」というのでしょね。

よく、こんなやつを怒らないできたなと思いますけれども、僕はおふくろが言った中できちんと守っていることがいくつかあります。それは、「弱い者いじめをしちゃだめだよ」次は「女の子はかわいがるんだよ」ということ。おふくろから伝授した生き方を今もちゃんと守っている。

**下村** 幸せですよ。たくさんの愛情をもらったから、こういうふうになったのですよ。

**愛川** そう。だから人をいじめる権力とか、人の前で威張る人が一番嫌いですね。かわいがることで僕におふくろが教えてくれたのは、やっぱり優しさですよ。それが、僕の中では幼児体験から今も全く変わらない。

「弱い者いじめをしちゃだめだよ」というのは、しっかり根付いている。弱い者いじめをするという尺度で世の中を見ると、だいたい弱い者いじめをするのは権力者だね。

**下村** そうですよ。



## 夫婦のパートナーシップ

**愛川** 近ごろの女性の進出に関して言えば、特に映画や演劇の世界では、昔から女だから、男だからというのはありません。一緒じゃないと仕事ができないから。だけど、実際には男社会みたいなところがありますね。

**下村** 監督とか演出家とか、そういう人は圧倒的に男性ですね。

**愛川** 男が多いです。ところが、スタッフは女性がどんどん増えてきて、大勢いらっしゃいますよ。僕らの周りを見ても、男性だ、女性だという意識はほとんどないですね。

だって、うちのかみさんは「うつみ宮土理」ですよ。かつては多少僕のほうが偉かったかもしれない。いろんな意味でね。収入の上でも。第一、泥棒が来たら、きっと僕がやっつけるでしょうね。今はかみさんのほうが強いかもしれない。かみさんのほうがずっと若いし。それに、今はかみさんのほうが稼ぎがいいね。僕は映画なんか撮って浪費しているし、収入のことからいったらあんまり仕事していないもん。城は明け渡していますね。だから、うちは男女共同参画の上をいっている。

**下村** お互いに相手の世界は侵さないという形ですか？

**愛川** 全く侵さないね。かみさんはかみさんで好きなことをやっている。僕は僕で好きなことをやっている。必ず見には行きますが、見て、僕はどうだったとか言うことはありません。人間は一人ひとりみんな美学が違うはずだから

ら。特に僕らの世界は自分の世界観を持っていなかったらだめですからね。

今日は、こんなに大勢の方に映画を観ていただいて、中にはかったるいと思った方がいらしても結構ですよ。しかし、僕が会場に入ってきた瞬間に、ラストシーンを見終わった皆さんがほろっとされたかなというのが、何かじわっと伝わってくるんです。心地よい映画だったと受け取られたというのがひどくうれしいですよ。

何かを伝えようとする時に、映画のように誰が観てもわかりやすいものじゃなくてはいけないと思うんです。人間が自分の体を使って何かを表現するんですからね。

**下村** 宮土理さんは映画について何と言ってますか？

**愛川** 彼女も、あまり語らないけれど、陰で誉めていますね。誉めるとこの人は調子に乗ると、よく分析しているんでしょうね。だから、面と向かってはそうは誉めません。

**下村** 結婚式で「夫婦は一心同体」なんてあいさつする人がいるけど、私は「夫婦は二心異体です。だから1+1が3にも5にもなるのであって一緒になることに意味がある。同じだったら、1+1が1のまま意味がないでしょう」と言います。半分くらい重なる部分があって、あとはお互いに自分の世界を持っていることが大切。いくら夫婦でも相手の世界に土足で踏み込まないということが大事かと思えます。

**愛川** 大事だね。

**下村** ご夫婦共に職業を持ち、有名人というのは、なかなかうまくいかないケースが多いけれども、愛川さん達はとても上手くいっていますね。宮土理さんのことも若い頃からよく知っていますがお二人のパートナーシップがよかったのだと思います。それに彼女も、まるで独身女性みたいに伸び伸びとしていますね。私も結婚して39年ぐらいになるのに「えっ、下村さん、結婚しているの？」という人がいてショックを受けることもあります。それくらい結婚しているように見えない。家庭のおいが全然しないとされます。誉められているのか、けなされているのか。(笑) 彼女もそういうところがありますよね。

**愛川** 「こうします」と言われれば「はい、どうぞ」と応えます。

昔風に、男が家に帰ってきたらかみさんがいて、「まずお風呂にしますか」とかなんとかっていう家庭は味わったことがない。けど、そのことで男が努力したり嘆くほどのものじゃないですね。

**下村** ご飯はどうしているのですか？

**愛川** ご飯は、かみさんは外でみんなと食事をしてドンチャンやって、僕は、場合によってはお付きの青年に何か買ってきてもらったりしています。何とも思わないですよ。いや、そんなものばかり食べているわけではありませんよ。作るときは作るんだから。何にも問題ない。

**下村** だから素晴らしいんですよ。これがまさに男女共同参画、グッド・パートナーシップです。そんなに難しい理屈はいらないですね。

**愛川** 僕たちは両方が同じことを考えている。昔から「亭主は元気で留守がいい」という言葉がありますけれども「女房も元気で留守がいい」

僕は俳優ですから、映画も撮り始めたので監督もやっていますけれども、こういう仕事をしている人間はより大勢の人に見てもらいたいからやっているんですね。それを、今回こうしてたくさんの方に観に来ていただき、福島県のみなさんには、本当に心から感謝しています。

**下村** 本当にありがとうございました。

【映画】

## いつも二人



<ストーリー>

善三（愛川欽也）は浅草の場末の劇場で、ストリッパーの恵子（任漢香）に入れ込んでしまうあまり、ついには仕事をクビになり、恵子のマネージャーに。それほど惚れ抜いている善三だったが、恵子にはいつも他に男がいた。

そんな中、2人は興行会社からの独立を秘かに計画するのだったが…。

# 福祉機器展示室のご紹介

福島県介護実習・普及センター



福祉機器展示室では、東北地方最大級の規模の「約650点の福祉用具の展示」やどなたにでもつかいやすいグッズをそろえた「ユニバーサルデザインコーナー」などがあります。

## 1 福祉用具の展示・紹介 ・相談を行っています!

※福祉用具の販売はしておりません。

「高齢の母がもっと楽にお風呂に入れられないかな？」  
「ベッドから車いすへの移動が本人も家族も大変で・・・」  
「一人暮らしの母が心配」 など  
福祉用具や住宅改修、介護のことなど ご遠慮なくご相談ください。  
(電話・FAX・メールでも受け付けています。)



## 2 介護・福祉に関する情報提供をします!

福祉用具・高齢者介護に関するビデオ・DVDや書籍をご覧になれます。ビデオの貸出しも行っています。

\*ビデオリストは、当センターホームページからご覧いただけます。

[http://www.f-miraikan.or.jp/fukusi\\_kiki\\_soudansitu](http://www.f-miraikan.or.jp/fukusi_kiki_soudansitu)

また、介護講座や福祉用具の展示会案内もしています。

## 3 介護が必要な方などの 住宅改修相談を受けています!

(福島県福祉用具・住宅改修相談事業)

福祉用具の活用や住宅改修についての相談をお受けしています。専門の相談員(福島県理学療法士会、作業療法士会、建築士会、福祉機器協会)を現場に派遣し、指導・助言等で快適な生活へのサポートをします。また、ケアマネジャーの勉強会などに事例検討会での指導・助言も行っています。ぜひご活用ください。

※利用料は、無料です!



見て、知って、体験しよう!

団体やグループの見学、  
育成会行事などにも  
お気軽にご利用下さい。

問い合わせ先

### 福島県男女共生センター 福祉機器展示室

TEL (0243)23-8316 FAX (0243)23-7863

MAIL : fukushi@f-miraikan.or.jp

開館時間：午前9時～午前12時 午後1時～午後5時

休館日：月曜日(この日が祝日の場合はその翌日)、年末年始(12/29～1/3)

※その他保守点検等の理由で臨時休室になることがあります。

# 事|業|報|告

report

1

## 第15回未来館トークサロン

### 「下村満子と語る会」in 檜葉町

日時：平成20年8月2日（土）14:00～16:00

場所：檜葉町サイクリングターミナル  
（天神岬スポーツ公園）2階研修室

海が近くに見え、景観が素晴らしい檜葉町サイクリングターミナルで、18人の県民の皆さんと「男女が子育てにどう関わるのか」、「女性が家庭と仕事を両立する難しさ」、「地域の中で、特に男性に男女共同参画の理解を深め・広げていくにはどうしたらよいか」、「女性がもっと社会進出するには」など、熱い意見を交わしました！



#### 参加者の声

- ・地域の方に男女共同参画の理念を普及していくことのむずかしさを感じています。下村館長と話をし、目の前が明るくなった様な気がしましたが、明日からまた町のみんなと考えていきたいと思えます。
- ・現代社会の多くの問題を、男女共生を通して色々な側面から考えることができました。下村館長と直接話ができて良かったです。
- ・今回のように間近で質疑応答できたことが大変良かったです。

#### 次回開催予告!

第16回 未来館トークサロン 須賀川市内で開催決定!

日時：11月22日（土）14:15～16:15

場所：ホテルサンルート須賀川「逢隈」

詳しくは、事業課 TEL:0243-23-8304までお問い合わせください。

report

3

## 安藤哲也さん 講演&トーク

日時：平成20年8月23日（土）13:30～15:30

場所：福島県男女共生センター 第2研修室

「父親であることを楽しもう!」と、NPO法人ファザーリングジャパンを立ち上げ、代表理事を務める傍ら、娘と息子の通う小学校のPTA会長を務めたり、「パパの出張絵本おはなし会」を全国各地で開催されたりと、大活躍の安藤哲也さん。

今回の講座では、そんな安藤さんに、「古いOSから、新しいOSに変えよう!」「パパは子供にとってのヒーローであるべき」「ママも大切にしよう!」等のお話や、「パパカ（ぢ

から）検定」からの出題など、「仕事も子育ても地域活動もあきらめずに幸せな生活を送る極意!」を楽しく伝授していただきました。



受講されたパパ・ママ、プレパパ・プレママから、「“楽しく生きる”という考えが聞けて、前向きになれました。」「子育ては、パパとママ両方の力

## 健康セミナー “元気な自分”になるための メンタルマネジメント

日時：平成20年8月9日（土）14:00～16:00

場所：福島県男女共生センター研修ホール

講師：白石豊さん（福島大学人間発達文化学類教授）

多くのスポーツ選手のメンタルコーチを務め、メンタルトレーニング・メンタルマネジメントの第一人者である福島大学の白石豊教授から御講演いただき、ヨガの実技も交えながら体も心も元気になることについて学びました。



### 講師プロフィール



白石 豊（しらいしゆたか）さん

岐阜県生まれ。筑波大学大学院体育研究科修了。現在、福島大学人間発達文化学類教授。国際体操連盟スポーツ科学委員会委員、福島県スポーツ振興審議会会長、福島大学スポーツユニオン副理事長などをつとめる一方、トップスポーツ選手にメンタルトレーニングの指導を行い、成果を挙げている。

#### 主な指導例

プロ野球下柳剛投手（日本ハムファイターズ2001年～2004年、阪神タイガース、2005年セリーグ最多勝）  
プロゴルファー牧野裕プロ、高橋勝成プロなど  
バスケットボール萩原美樹子選手（日本リーグ4年連続得点王）  
アトランタオリンピック日本代表チーム（7位）  
新体操シドニーオリンピック日本代表チーム（5位）

### 参加者の声

- ・白石先生のお話は数回聴いています。仕事でも生きるお話なので、とても興味深かったです。すばらしい活きた智恵をどうもありがとうございました。
- ・「心の元気」が大切な今、心の元気を回復できる方法（ヨガ）があると知って、また一部の簡単な実践法を教えていただいて有意義な講演でした。
- ・自分に「ありがとう」と時々言ってみます。健康の大切さを改めて実感しました。心と身体の両方が健康でいられるよう努力しようと思います。

が組合わさってこそ成り立つ。」「父親になることが楽しく思えるようになりました。」等の、感想をいただきました。



### 須賀川市でも講演決定！

日時：平成21年2月7日（土） 10:00～11:00（予定）

場所：須賀川市中央公民館

詳しくは、事業課 TEL:0243-23-8304までお問い合わせください。



# チャレンジする女性

とうま なみ  
當間 菜美さん  
通訳案内士

## Woman Who Challenges

今回のチャレンジする女性は、通訳案内士の當間菜美さんです。  
子育てと仕事を両立しながら、  
やりたいことを実現させた彼女の生き方に迫ります。

当センターの海外派遣事業である「グローバルサポーター事業（女性リーダーコース）」に参加し、過去に留学もされたイギリスへ視察研修に行かれましたが、感想を聞かせてください。

「教育」をテーマに研修をしてきたのですが、日本に取り入れたいことがたくさんありました。現地で案内してくれられた方が言っていたのですが、最高学府が無償であるべきだという発想ですね。つまり大学の学費を一番安くすべきという考えです。たとえ外国人でも、しっかり勉強する人は受け入れています。もう一つは個性を生かす教育です。自分に力があればすぐにでも日本に取り入れて、実践したいくらいです。

学生時代に留学した時には気が付かなかったことに気付かせてもらいました。それから、全国各地のいろいろな方達と知り合えたことはとてもよかったです。福島に帰ってきてからも人脈を広げることができました。

### 通訳関係の仕事を目指したきっかけは何ですか？

実は英語が話せるようになったのは、大学入学後です。

私は、帰国子女でもなければ海外生活の経験も全くないまま、大学で英語の授業を受けることになったので、始めは英語に対してはむしろ苦手意識のほうが強かったくらいです。しかし大学4年間のうちに日本語以外の言語でコミュニケーションがとれるようになるという目標を持ち、交換留学生としてイギリスへ留学したのです。

その後は、学んだ英語をいかして何かをしたいという思いを持つようになっていました。

就職に関しては、第一志望は面接で落ちてしまいました。いつまでもしがみついても仕方ないと考え、一般企業に就職したのです。そうしているうちに子どもができて仕事を辞めました。専業主婦になり、社会とのつながりの必要性を感じて平成18年の11月、男女共生センターの海外派遣事業に参加した頃から、通訳という仕事をやってみようかと思い始めたのです。

まず始めに、ボランティア通訳という試験を受けてみたら合格し、少し自信がついたので、海外派遣から帰国後、1年間くらい勉強して「通訳案内士」の資格を取得しました。

### 「通訳案内士」というお仕事について教えてください。

「通訳案内士」というのは、法律で定められている国家

資格です。日本語—英語の通訳をするというだけではなく、日本の地理と歴史と一般常識を英語で説明できることが条件なので、試験にも英語だけでなくそれらの問題が加わります。日本の文化なども理解していないと難しい仕事です。

### ところで、通訳の方には女性が多いように感じますがどうしてなのでしょう？

そうですね。いろいろあると思いますが、日本の社会環境も関係しているのかと思います。通訳のギャラは、よほど有名にならない限り高くはありません。男性が通訳を仕事にしたいと思ったとしても、それだけでは食べていけないという状況があるのかもしれません。ただ、通訳案内士の資格を持っていると観光業界では有利なようです。

### 「通訳案内士」のお仕事をしていてやりがいを感じる瞬間はどんな時ですか？

翻訳の他に、ボランティアで外国人のツアーに同行して簡単な通訳をしたり、英会話の教師をしたりしていますが、どのような仕事でも相手の方に「ありがとう」と言っていただけた時が一番うれしいです。

### 現在は、全て一人で仕事をこなしていると思いますが困った状況に直面したり不安を感じる時、どのように乗り切ってきましたか？

仕事でも何でも依頼を受けたら、始める前から無理だとか出来ないかもしれないかと思うことはほとんどありません。少くくらい難しそうだと思っても、まずはやってみます。

時間的、物理的にできない場合は断りますが、それ以外は大抵引き受けます。やってみて難しいと感じたら、パニックになる前に何がいけないのかを落ち着いて考えるようにします。100点満点をとろうとせず、最後まで諦めさえしなければ、大抵のことは何とかあります。

### 子育てと仕事の両立で大変だと思うことはありますか？

子どもが熱を出したり病気になった時ですね。今のところ、パートの職場では「休んでいいよ」と言ってくれるので助かっていますが、世の中には苦勞をしている方も沢山いると思います。自分が上司の立場になることがあれば、「子どものために休んであげなさい」と言えるような上司になりたいですね。



## プロフィール

通訳案内士。福岡県生まれ、埼玉県育ち。郡山市在住の現在29才。国際基督教大学卒業後、大手製菓会社の営業として就職し、福島県に転勤となる。お互いの転勤先である福島県でパートナーと知り合い結婚。現在はパートナーと息子の3人暮らし。結婚を機に退職後、数年間専業主婦となる。その後、平成18年度グローバルサポーター事業「女性リーダーコース」（主催：福島県男女共生センター、企画：国際女性教育振興会）による海外派遣事業（イギリス班）に参加。帰国後、大学時代に10ヶ月間のイギリス留学で得た語学の能力を生かし、「通訳案内士」の資格を取得。現在はパートで事務の仕事をしなが、独立し翻訳・通訳等の仕事をこなしている。



ジェンダーや男女共同参画に関して思うことをお聞かせください。

私には大企業に勤めていて、出産を機に退職したという経験があるのですが、トップが決めた育休や産休の制度があっても、現場の人たちは、前例がないのでだれも制度を利用したことがありませんでした。

また、知人の女性は、就職活動をしている時に、必ずと言っていいほど、「女はすぐに結婚、出産するだろう」と言われ、採用してもらえなかったと話していました。彼女は、その時、「子どもを産まずに仕事を続けるか、子どもを産んで仕事を辞めるかの2者択一しかない」と感じたそうです。

本当に仕事を続けたいと思っている女性のためにも、子どもを育てながら仕事を続けられるような仕組みが、それも絵に描いた餅のような制度ではなく実際に使える仕組みが必要ですよ。

男性の育児休業の取得も、もっと増えて欲しいと思います。スウェーデンなどでは、国が男性の育児取得などもきちんと管理していますよね。日本は、国民が政治にもっと関心を持たなければ、国はいい方向には進まないのではないかと思います。留学中に知り合った友人達は、若くてもみんな政治に関心があるのです。私が学生の頃に、日本人の友達に政治の話をする、変な人、もしくは活動家だと思われました。それくらい、日本人は政治に無関心です。男女共同参画社会を作りたいと思っている人たちがもっと政治に関わるようになればいいと思います。

世の中をみても、結果として女性の就業率が低く、例えば優秀な大学を卒業して能力があるのに活かさない人がたくさんいるという現状があり、さらに出生率も低いというように、はっきりと数字に表れてしまっている。強引に数値だけを上げようとしても無理が生じると思うんです。やっぱり土台から変えていかなければならないのでしょうか。



最後に夢を教えてください

家族みんながいい人生だったと思える人生を送ることで。マニュアルがあるわけではないので、家族でいろいろなことを何でも話し合っ、みんなが同じくらいやりたいことができて、いい人生を送れることです。それが夢です。

ありがとうございました

また、親戚や知人には、仕事と子育てを両立している女性がほとんどいません。時には「母親が家で子どもと一緒にいてあげないと、子どもはかわいそうだ」という声も耳にします。女性が仕事をするということを前向きに捉えてもらえる機会はなかなかありませんでした。私は自ら行動で示して、それを見て成長した息子が将来自分のパートナーに対しても、仕事を持つのが当たり前だと考えられる大人になることを期待しています。

夫も私の仕事を応援して家事も手伝ってくれるし、特に子どもの面倒を見てくれるのはとても助かります。夫自身が、子どもの頃父親と遊んだ思い出があまりなかったので、自分は子どもと触れ合い、子どものことをちゃんと理解したいと思っているようです。



では、仕事と子育てをしていて良かったことはなんですか？

時間が限られているので、集中して短時間で勉強も仕事もこなせるようになりました。(笑) 通訳案内士の資格を取る時の勉強時間は、パートの仕事と家事・育児をしながらだったので、朝の4時頃に起きて1時間くらいでした。暇だったらかえってできなかったと思います。仕事柄、体調を崩してはいけないので健康管理にもとても気をを使うようになりました。

また、私と子どもとの間に適度な距離が生まれました。保育所に通うようになり、転勤先で親戚も、友達もいなかった息子に家庭以外の新しい世界ができて良かったと思います。家に私と二人でいる時にはできなかったことが、保育所で周りの友達ができるのを見てたった1週間でできるようになりました。

仕事をしていると、様々な情報が入ってきますし、女性団体の方との出会いがあったように、家の中だけにいたら会うことはなかった人との出会いがありますから、とても刺激になります。大変だと思うことはあっても、良かったことのほうが大きいですね。

## 絵本の読み聞かせ & ママとパパの読書タイム

毎月第3土曜日の午前中（10時～12時）、  
福島県男女共生センター子供室で開催中！

日ごろお子様の育児で忙しいママやパパに、しばしの間  
本を読んだり選んだりするひとときを過ごしていただけるよう、  
ボランティアの方の協力により絵本の読み聞かせ会を開催しています。



11/15(土)  
12/20(土)

お問い合わせ Tel0243-23-8303 または Tel0243-23-8308 (図書室)

## 内職求人情報募集中

福島県男女共生センターでは、意欲と能力のある女性が職場や地域で活躍できるように就業援助相談（チャレンジ支援相談、技術講習会の実施、内職相談等）を実施しています。

また、内職求人情報も随時募集しています。求人を出したいとお考えの事業所は、ぜひ各地域の相談コーナーまでご連絡ください。

連絡先	担当地域	相談時間
<b>二本松相談コーナー</b> 福島県男女共生センター Tel0243-23-8307	福島市、二本松市、伊達市、 本宮市、伊達郡、安達郡、 相馬市、南相馬市、相馬郡	原則として 【火、木、金曜日】 9時～12時、13時～16時 【水曜日】 13時～17時、18時～20時
<b>郡山相談コーナー</b> (県中地方振興局 県政相談コーナー内) Tel024-927-4030	郡山市、須賀川市、田村市、 田村郡、岩瀬郡、石川郡、 白河市、西白河郡、東白川郡	
<b>会津相談コーナー</b> (会津地方振興局 県民環境部内) Tel0242-29-5588	会津若松市、喜多方市、 河沼郡、大沼郡、耶麻郡、 南会津郡	原則として 【月～木曜日】 9時～12時、 13時～16時
<b>いわき相談コーナー</b> (いわき地方振興局 県政相談室内) Tel0246-22-6400	いわき市、双葉郡	



# 未来館

News

「自分らしさ」を生かした未来へ

2008.10  
No. 33

### 編集・発行 「未来館NEWS」

(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構  
 福島県男女共生センター～女と男の未来館～  
 〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1  
 TEL(0243)23-8301(代) FAX(0243)23-8312  
 ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>  
 メールアドレス [mirai@f-miraikan.or.jp](mailto:mirai@f-miraikan.or.jp)



この広報誌は、  
環境にやさしい大豆インキを使用しています。



アクセス  
 ■ 二本松市郭内一丁目196-1  
 ■ JR東北本線 二本松駅より徒歩12分  
 ■ 東北自動車道 二本松ICより車で5分